

霧多布湿原ナショナルトラスト

ふるさと浜中会東京 事務局長 栗本修己



浜中町南部に位置する霧多布湿原は国内3番目の広さを持ち、夏に見せる花の景観は国内でも最大級といわれている。1993年にはラムサール条約に登録され、その価値は国際的にも評価されている。この素晴らしい自然の保全・再生を目指す団体として、特定非営利活動法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」がある。

トラストは、湿原がもつ豊かさや価値を多くのの人々に伝える活動をおこない、この湿原を未来の子どもたちへ残していくことを趣旨としている。活動の3本柱は、霧多布湿原の保全、地域の自然や壊れた湿原の再生、霧多布湿原のファンづくりである。市民が主体となつて湿原を愛する多くのの人々の輪を広げる活動を展開することで、湿原民有地の買取や保全を図り、自然と共生する暮らしや町づくりを目指している。

一連の活動は、1986年に遡る。地元青年たちが集まり、霧多布湿原の保全のために、「霧多布湿原ファンクラブ」を発足させた。その後、湿原の恒久的な保全を目指す民有地の買い取りなどを進め、2000年にはNPO法人「霧多布湿原トラスト」を設立し、ファンクラブの活動を引き



つづき現在に至っている。湿原総面積は3168ha程だが、そのうちの民有地1200haのうち783haをこれまでに買い取ったとのこと。また、2013年2月時点の会員数は2419人で、法人140数社には活動支援企業としてキューピー、日清製粉グループ、セブンイレブン記念財団、タカナシ乳業、ハーゲンダッツジャパン、前田建設などが名を連ねている。

ところで、湿原の熱心なファンとして霧多布湿原ファンクラブ東京がある。クラブは今年で10周年を迎え、国立市の富士見通り中央に位置する窓明浄机館にて記念イベントを開催した。期間は7月中旬から9月中旬までの2ヶ月間で、前半を第1回展とし、テーマは

「滝川文化」とフロンティア

東京滝川会 会長 玉置和宏



日本が激しく動いている。世界はもつと前に動いている。無論滝川ものほんとしていくわけではない。いずれPPP反対などという素朴だが時代錯誤の看板は石狩川に捨て去るだろう。我々は首都に居ても心は挑戦をモットーとするフロンティアの子孫である。

滝川は明治23年から28年まで屯田兵による父祖の厳しい開拓で築いていただいた。多くは日本海側諸藩の武士の出身者であった。東北の藩もあり、私の曾祖父のように十数人と少ない和歌山藩からの屯田兵もいた。

明治維新から生まれた開拓で、空知川と石狩川の三角州に「滝川文化」が花開き、各藩の異質な文化の融合によりいまに至っている。北大の祖、クラーク博士が生徒を引き連れ

ふるさと浜中会東京の会長であるルパン3世の原作者モンキー・パンチさんと加藤一彦氏にスポットをあてた「モンキー・パンチのふるさと浜中・霧多布展」、後半の第2回展は、浜中町の霧多布湿原を守る会として積極的な活動を展開している「霧多布湿原ナショナルトラスト30年の歩み」である。



知りたいことも、伝えたいことも、あなたと私、ここで暮らすみんなのために。

北海道新聞には伝えたいことがたくさんあります。私たちの伝えたいことは、北海道で暮らす多くの皆さんに知ってほしいこと。私たちの伝えたいことが皆さんの知りたいことになる。そんな瞬間を大切に考えます。ここで暮らすみんなのための「わかるをつくる」それが私たちの仕事です。



わかるをつくる

北海道新聞



ご婚礼に、パーティに

ご結婚披露宴・各種集宴会やご家族の記念日まで、真心をこめてお迎えいたします。

Ceremony Party

明治記念館

〒107-8507 東京都港区元赤坂 2-2-23 TEL 03-3403-1171(大代表)